

# 令和3年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 東谷 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学)

#### 教科に関する調査(国語, 数学)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問紙調査

#### 生徒質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の3年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語, 数学)の結果

本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	8.8	55
全国	9.0	65	9.1	57

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全体的にどの分野においても、全国や県平均を若干下回っている。選択式の回答における無回答率もほぼない。</li> <li>○話すこと・聞くことに関する分野において課題が見られる。</li> </ul>
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文章構成の工夫を考える問題、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ問題、漢字の読み等については、全国、県平均を上回っている。</li> </ul>
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○質問の意図を捉える問題(話すこと・聞くことの評価)分野において、全国、県平均を下回っている。</li> </ul>
数学	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>○分野によっては、全国、県平均を若干上回る結果となった。記述式の無回答率は、数学的に説明する部分で無回答率が高かったものの、全国、県平均を下回っている。</li> <li>○多くの分野で全国、県平均を若干上回っている傾向があるが、一次方程式の問題については、大きく全国、県平均を下回っている。</li> </ul>
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○与えられたデータから中央値を求める問題、与えられた線やグラフから、必要な情報を適切に読み取る問題においては、全国、県平均を若干上回る結果となった。</li> </ul>
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○具体的場面での一元一次方程式をつくる問題、ヒストグラムの読み取り問題に課題があった。また、数学的な結果事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる問題(記述式)の無回答率が高かった。</li> </ul>

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>○起床時間より、就寝時間についての方が、やや不規則な傾向にある。</li> <li>○「自分には良いところがあると思いますか」という質問に対して最も肯定的な回答をした生徒が国や県に比べて少ない。同様に、「将来の夢や目標を持っていますか」についても、最も肯定的な回答が少ない傾向にある。</li> <li>○家庭学習を計画的に実施する生徒の、最も肯定的な回答が少ない傾向にある。半数以上の割合の生徒が「3」「4」の回答となり、できていない傾向にある。</li> <li>○読書についても、実施時期については、肯定的な回答が少ない傾向にある。新聞はほとんどの生徒が読んでいない現状にある。</li> <li>○「地域や社会をよりよくするために何をすべきかを考えることがある」については、現時点ではあまり考えていない傾向が見られる。</li> <li>○学習の中でICT活用の大切さについては多くの生徒が実感している傾向にある。</li> <li>○数学に関して苦手意識をもつ傾向があるが、その大切さについては理解している。</li> <li>○自分で決めたことをやろうとする気持ちはあるが、「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦する」姿勢については、全体的に弱い傾向にある。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎学力向上のための「毎日の課題(国、数、理、英、社)」,及び「東谷ノート(自主学習用)」で、家庭学習の充実を図っている。</li> <li>○学力向上3部会を設置し、組織的に授業改善研修を定期的実施している。研究主題やその手立てをもとに、代表者授業を行い、職員全員で成果、課題を共有している。昨年度より、特にICT活用の視点を導入し、日々の実践につなげている。以上を中心に、さらに継続、強化して取り組む。</li> </ul>
--

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>○「毎日の課題」と「東谷ノート」を機能させ、家庭と学校をつなぎ、保護者の理解を得て家庭学習の大切さを実感させている。</li> <li>○学校の実態として、日々の生活の様子を学校便りや玄関前TVモニターで紹介し、それを随時ホームページで更新、発信することで、学校での生徒の様子を伝えて理解していただいている。以上を、今後も継続、さらに強化して取り組む。</li> </ul>
--